

平成 29 年度事業計画

1 当面の課題と運営方針

- 近年における少子高齢化の一層の進行や女性の就労促進等に伴い、当法人が運営している児童・老人福祉施設に寄せる地域の人びとからの期待や需要が高まり、社会福祉法人として果たすべき役割がより重要となっています。一方、全国的に慢性的な保育士、介護職員等の「人手不足」が顕在化しており、当法人の施設運営にも深刻な影響を及ぼしています。
- 政府は、「一億総活躍社会の実現」に向けて、子育て・介護の環境整備の緊急対策を促進するうえから、保育・介護人材の確保のための保育士及び介護職の待遇改善施策を講じているものの、法人施設の経営収支の根幹をなす介護報酬や保育所補助金等には、厳しい対応を迫られているものがあります。
- このような課題を全職員が共通認識のもとに共有し、「健全経営」を確保するよう、創意工夫をかさねて不断の「自助努力」に努め、「地域に根ざした信頼される施設づくり」を「持続的」に進めていかなければなりません。
- 平成 29 年度は、「第 2 期中長期計画（平成 25 年度～29 年度）」の最終年度として「総仕上げのとき」にあたり、「工程表」の進捗状況を検証して、各般の事業（目標）を着実に実施する方針のもとに予算を編成しました。

2 重要事項

- (1) 「第 2 期中長期計画」の総括を踏まえ、「第 3 期中長期計画（平成 30～34 年度）」を策定します。
- (2) 地域に根ざした信頼される施設づくりを進め、利用者定員等の確保を図るため、ご家族をはじめ、市町村、地域福祉関係者との綿密な連携のもとに利用者本位の施設運営を推進します。
- (3) 職員のモチベーションを高め、職員資質の向上を図るため、職場研修実施要領に基づき、計画的に OJT、OFF-JT、SDS 研修等を実施するとともに、有為な人材を臨時職員から正規職員に登用するキャリアアップ研修を実施します。
- (4) 保育園における園児の健やかな成長を図るため、保護者との連携を密にして各般の「食育」に取り組むとともに、園開放等による交流の場の提供や、伝統行事・食事などを継承する活動等を展開し、地域の「子育て拠点」としての取り組みを進めます。
- (5) 児童福祉施設に勤務する職員が連携して保育内容等の改善・向上を図るため、各保育園等の職員が参加する「多職種職員合同研修」を実施します。
- (6) 地域に開かれた施設運営を促進するため、福祉関係養成校、医科大学等からの研修・実習生を受け入れて支援するとともに、おでんせ本宮による独居老人との交流会・地域出前講座や、盛岡さんさ踊りその他の地域催事への職員・園児等の参加・協力など、地域貢献活動を進めます。
- (7) 「子ども・子育て支援制度」による「幼保連携型子ども園」への移行については、経営面での課題、他保育園の動向等を見極めながら調査検討を進めます。
- (8) 保育士、介護職員等の確保を図るため、企業内保育所の設置や外国人有資格職員の雇用について、調査検討を進めます。
- (9) 施設の建物、付帯設備等の建設改良、維持修繕等については、「中長期施設整備計画」に基づき、おでんせ本宮、ケアハウスおでんせ、牧の林すずの音保育園、前潟保育園の施設の経年劣化等に伴う維持修繕・改修工事を実施します。
- (10) 長期的に安定した経営を確保するため、節減に努め、後年度に発生する建設改良等に備え、施設整備等の積立を行います。